

# 令和4年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関する調査結果 (概要)

## 調査結果のポイント

- 今回の調査結果の主なポイントは、以下のとおり。(※前回調査は令和3年度に実施)
- ・性別役割について、「**そう思う**」又は「**どちらかといえばそう思う**」と回答した割合は、**前回調査結果とほぼ同様に男性のほうが高い結果となっている。**
- ・全項目平均では、性別役割の「意識」は男性が高い一方で、直接言われた・言動や態度から感じた「**経験**」は女性のほうが多い。
- ・職場の役割分担に関する項目において、**20代男性で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高いものが多い**とみられる。

## 対象・調査設計

【対象】全国男女20-60代 10,906人(男性5,452人 女性5,384人 その他70人)

【調査設計】全国47都道府県を性別、年代(20代～60代)で分け、均等に回収するサンプリングとし、測定項目を追加し41項目とした。

## 1 性別役割意識(全体)

- 性別役割について、「**そう思う**」「**どちらかといえばそう思う**」「**どちらかといえばそう思わない**」「**そう思わない**」の4段階で聞いたところ、男女ともに上位に入った8項目のうち7項目は、男性の方が高い割合となった。
- 今回調査で新規追加した測定項目が上位に入っているが、男女ともに「**男性は仕事をして家計を支えるべきだ**」が一番高かった。その他男女差が大きく開いたのは「**男性は～べきだ**」という項目であり、前回調査と同様に**全体的に男性が高い割合**となっている。

性別役割に対する考え

男性 上位10項目	回答者数：5452	(%)	(参考) 前回 順位	女性 上位10項目	回答者数：5384	(%)	(参考) 前回 順位
1 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		48.7	2	1 男性は仕事をして家計を支えるべきだ		44.9	2
2 女性には女性らしい感性があるものだ		45.7	1	2 女性には女性らしい感性があるものだ		43.1	1
3 女性は感情的になりやすい		35.3	4	3 女性は感情的になりやすい		37.0	3
4 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		34.0	3	4 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		33.2	4
5 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない		33.8	5	5 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い		27.2	-
6 女性はか弱い存在なので、守られなければならない		33.1	-	6 女性はか弱い存在なので、守られなければならない		23.4	-
7 男性は結婚して家庭をもって一人前だ		30.4	7	7 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ		21.6	5
8 男性は人前で泣くべきではない		28.9	6	8 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ		21.5	10
9 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い		28.6	-	9 組織のリーダーは男性の方が向いている		20.9	8
10 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ		28.4	8	9 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい		20.9	8
11 家事・育児は女性がするべきだ		27.3	9	11 家事・育児は女性がするべきだ		20.7	7
14 家を継ぐのは男性であるべきだ		25.4	10	12 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ		20.3	6

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

 男女両方で上位10位に入っている項目

※赤字の項目は、今回調査で追加した項目

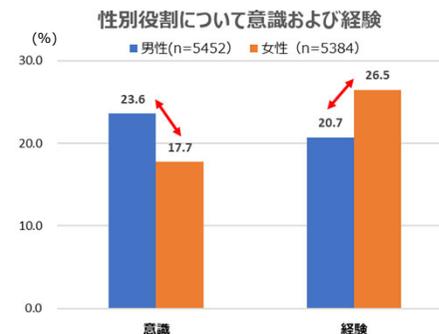
※「-」は前回測定項目になし

※性別役割意識(シーン別)については、調査結果を参照(P8)

# 令和4年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関する調査結果 (概要)

## 2 男女差でみえるアンコンシャス・バイアス

- 全項目平均では、性別役割の「意識」は男性が強い一方で、直接言われた・言動や態度から感じた「経験」は女性のほうが多い。(P25)
- 男性は女性と比べて、性別に基づく役割を直接言われた、あるいは言動や態度で間接的に接した「経験」は少なく、伝統的な役割観に自身がとらわれていることに気づいていない可能性がうかがえる。(P25)



意識：測定された41項目について、各項目「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の回答率の41項目平均 (%) を男女別に算出したもの

経験：性別に基づく役割を「直接言われた」あるいは「言動や態度から感じた」経験の回答率の41項目平均 (%) を男女別に算出したもの

## 3 職場項目における性別役割意識

- 職場の役割分担に関する項目において、20代男性で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高いものが多くみられる。
- 「男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない」「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」は、20代の男女間でも大きな差がみられた。(P28,29)

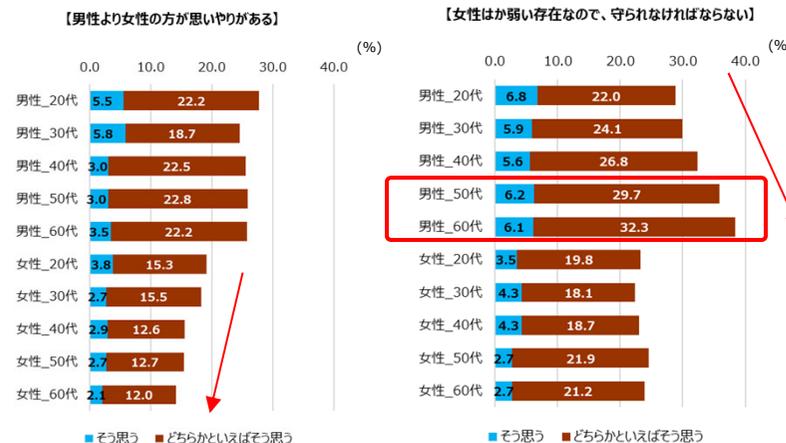


# 令和4年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関する調査結果 (概要)

## 4 性別役割意識(性年代別)

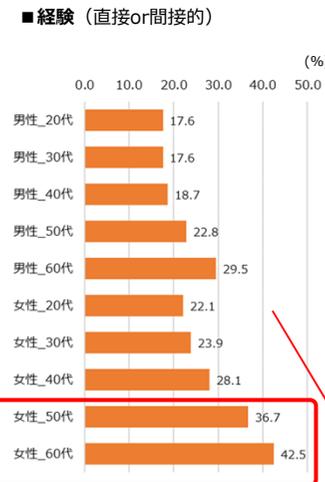
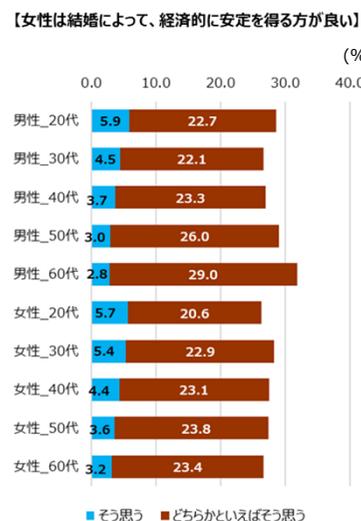
### 新規追加項目

- 「男性より女性の方が思いやりがある」は、女性では年代が高くなるほど、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が低い。(P13)
- 「女性がか弱い存在なので、守られなければならない」は、女性に好意的ではあるものの、女性の役割を固定化することにつながる考え方であり、男性50-60代で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高い。(P13)



### 結婚に対する価値観の相違

- 「女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い」は、性年代別で大きな差はないが、いずれの層も一定数みられる。(P26)
- 直接言われたあるいは言動や態度から感じた「経験」では、男性より女性の方が多く、女性は年代が高くなるほどそう感じさせられた割合が高い。また、女性50-60代で特に多い。(P26)
- 直接または間接的にそう感じさせた人として、女性は「母親」が1位で、次いで「父親」となっており、同性の友人や親戚が上位に入っている。(P26)



### ■ 性別役割を言ったり、言動を感じさせた人

男性	
1位	父親
2位	母親
3位	男性の知人・友人
4位	配偶者・パートナー
5位	女性の知人・友人

女性	
1位	母親
2位	父親
3位	女性の知人・友人
4位	女性の親戚
5位	男性の親戚

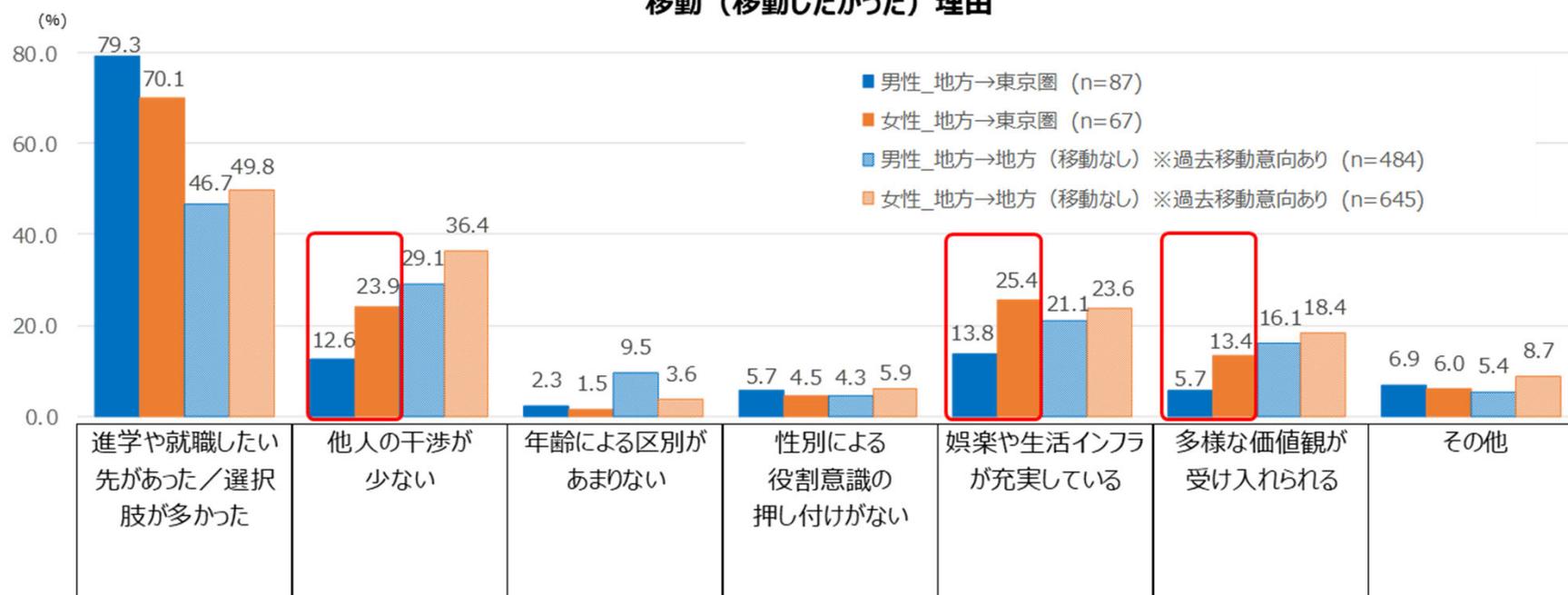
## 令和4年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関する調査結果 (概要)

### 5 地域間の移動者別にみる移動理由

○移動(移動したかった)理由として、「年齢による区別があまりない」「性別による役割意識の押し付けがない」は、男女とも少ない。(P24)

○「地方→東京圏」に移動した、かつ、進学あるいは就職で移動経験がある者の移動理由のなかで、男性より女性で高いものは、「娯楽や生活インフラが充実している」とともに「他人の干渉が少ない」「多様な価値観が受け入れられる」となっている。(P24)

移動(移動したかった)理由



〔移動者の定義について〕

※「地方→東京圏」「地方→地方(移動なし)」…中学入学時および現在住んでいる都道府県で、「東京圏」は埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、「地方」は東京圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)のほか、愛知県、大阪府、福岡県を除き集計。

※「地方→地方(移動なし)」は、中学入学時と現在住んでいる都道府県が同じ人を集計。